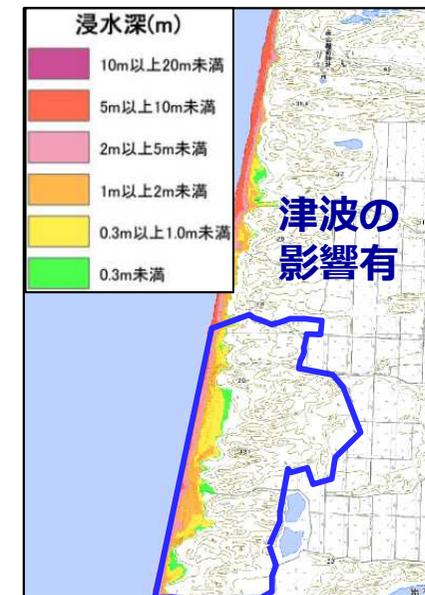


1. 他の国有地の検討：④ 国有地の機能・役割等に関する検討

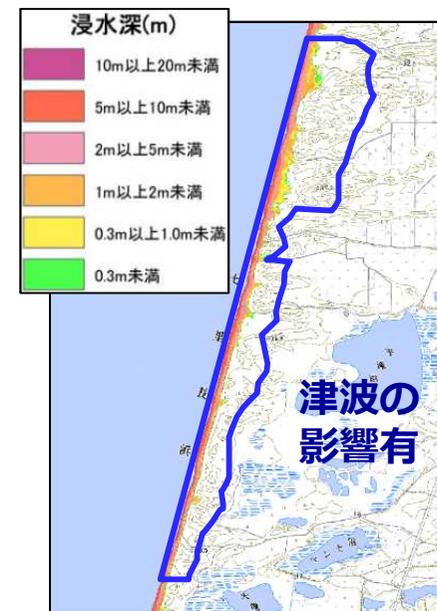
青森③
つがる市



※青森県HPより(津波浸水想定図)

不適

青森④
つがる市

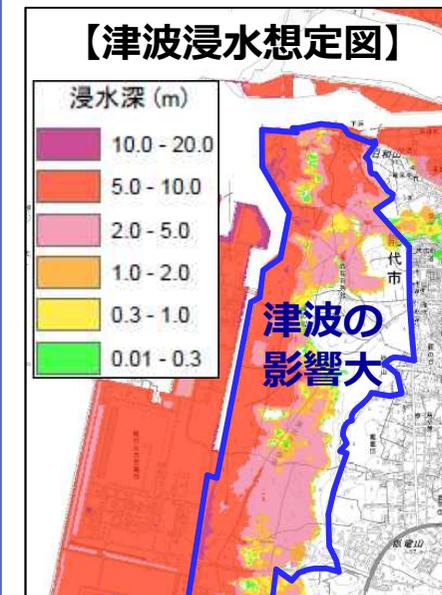


※青森県HPより(津波浸水想定図)

不適

1. 他の国有地の検討：④ 国有地の機能・役割等に関する検討

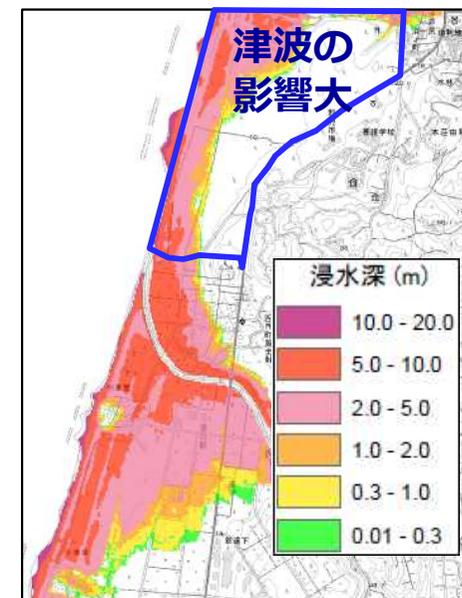
秋田⑥
能代市



※秋田県HPより(津波浸水想定図)

不適

秋田⑦
由利本荘市

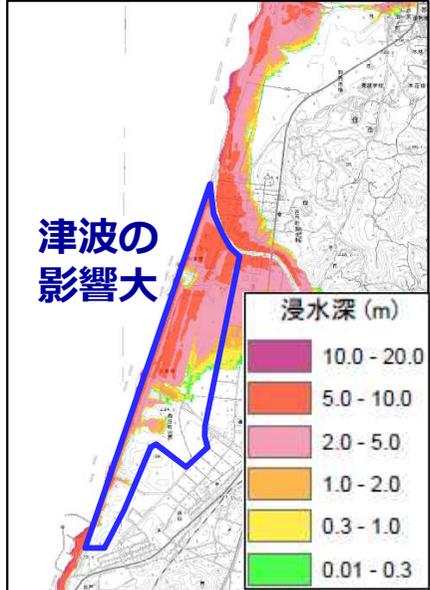


※秋田県HPより(津波浸水想定図)

不適

1. 他の国有地の検討：④ 国有地の機能・役割等に関する検討

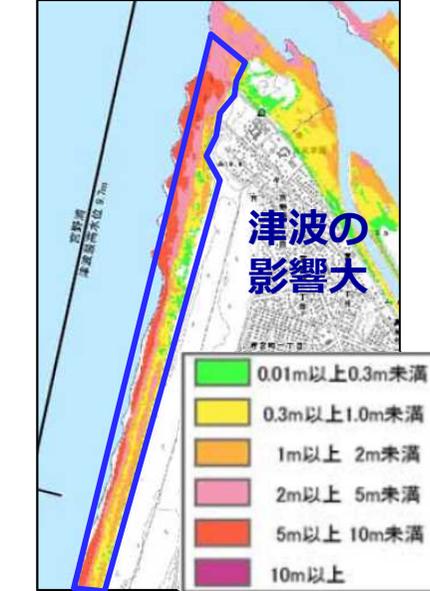
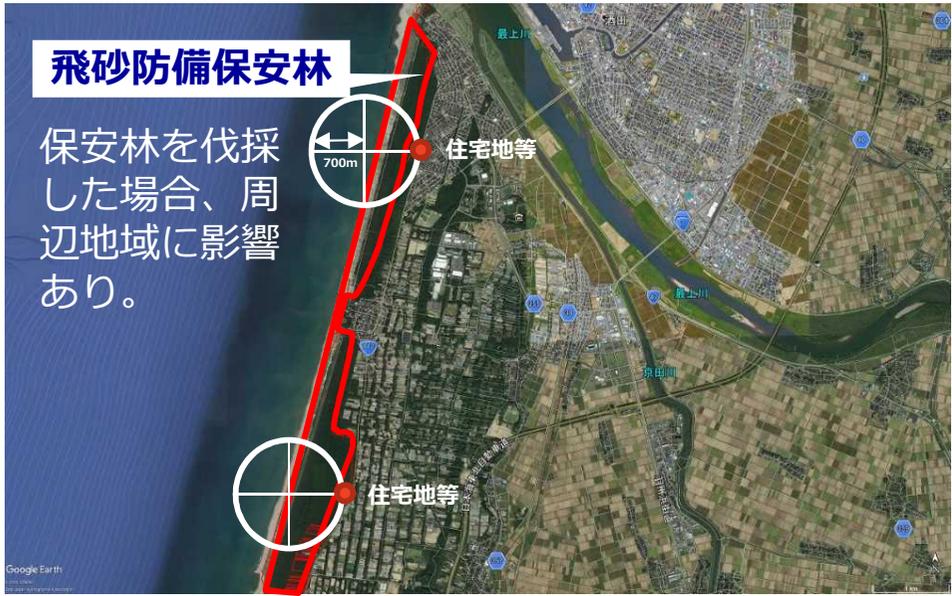
秋田⑧
由利本荘市



※秋田県HPより(津波浸水想定図)

不適

山形⑱
酒田市

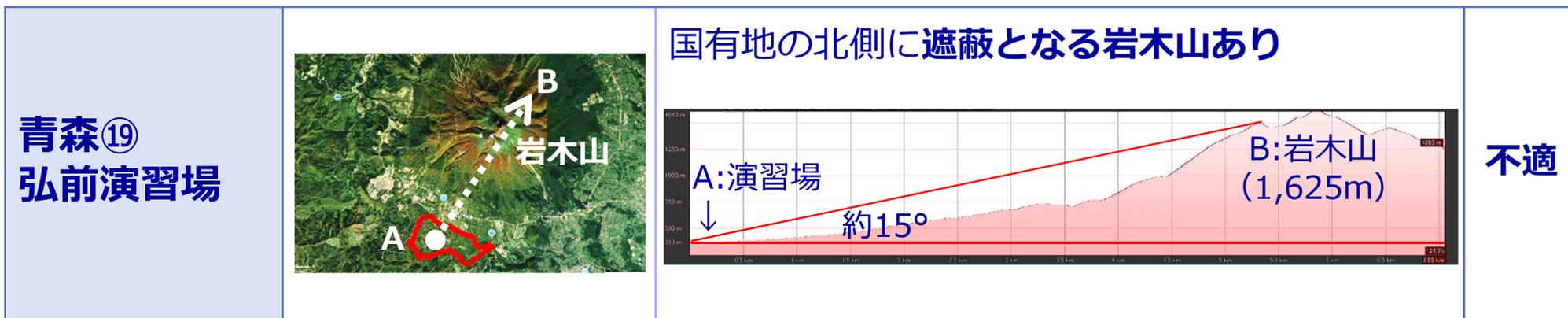


※山形県HPより(津波浸水想定図)

不適

1. 他の国有地の検討：参考

- 下記の自衛隊施設は、以下の理由より、不適であることが分かりました。



(参考)

- なお、今回抽出した国有地18カ所全てについて、防護範囲のシミュレーションを実施したところ、新屋演習場・むつみ演習場のように我が国全域を効果的に防護することはできないとの結果が出ました。
- 特に、青森県の国有地については、秋田県及び山形県の国有地と比較し、防護範囲が小さくなることが確認できました。

余 白

2. 防衛省の検討結果



2. 防衛省の検討結果

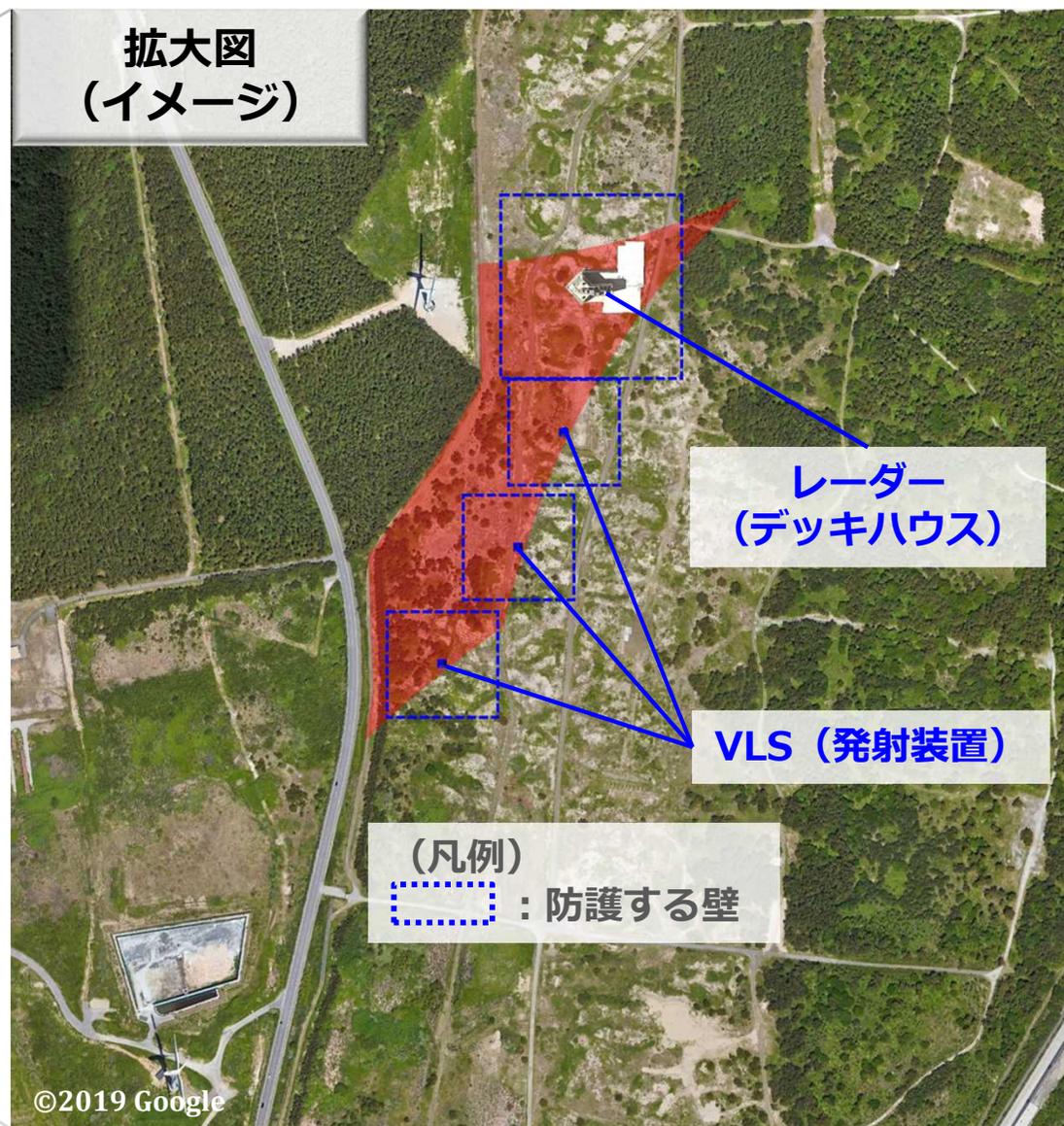
安全・安心のための具体的措置

■ 地域住民の安全・安心のため、主に次の措置を講じてまいります。

1. 緩衝地帯の確保
2. 電波の影響を防ぐための措置
 - ・ レーダーの運用
 - ・ 保安距離の確保
 - ・ 電波吸収体の設置
 - ・ 実機での計測
 - ・ 事故や操作ミスの防止機能
 - ・ ドクターヘリ等の運航に影響を与えないための措置
3. VLS（垂直発射装置）関係の措置
 - ・ 保安距離の確保
 - ・ 事故や操作ミスの防止機能
4. その他必要となる措置
 - ・ 県有地等の取得と県道の付替え
 - ・ 風力発電風車の移転
5. 警備態勢の構築
 - ・ 平素
 - ・ 海上の監視
 - ・ 事態緊迫時
 - ・ セキュリティ対策
 - ・ 配備する部隊
 - ・ 配備する装備品等

2. 防衛省の検討結果：緩衝地帯の確保

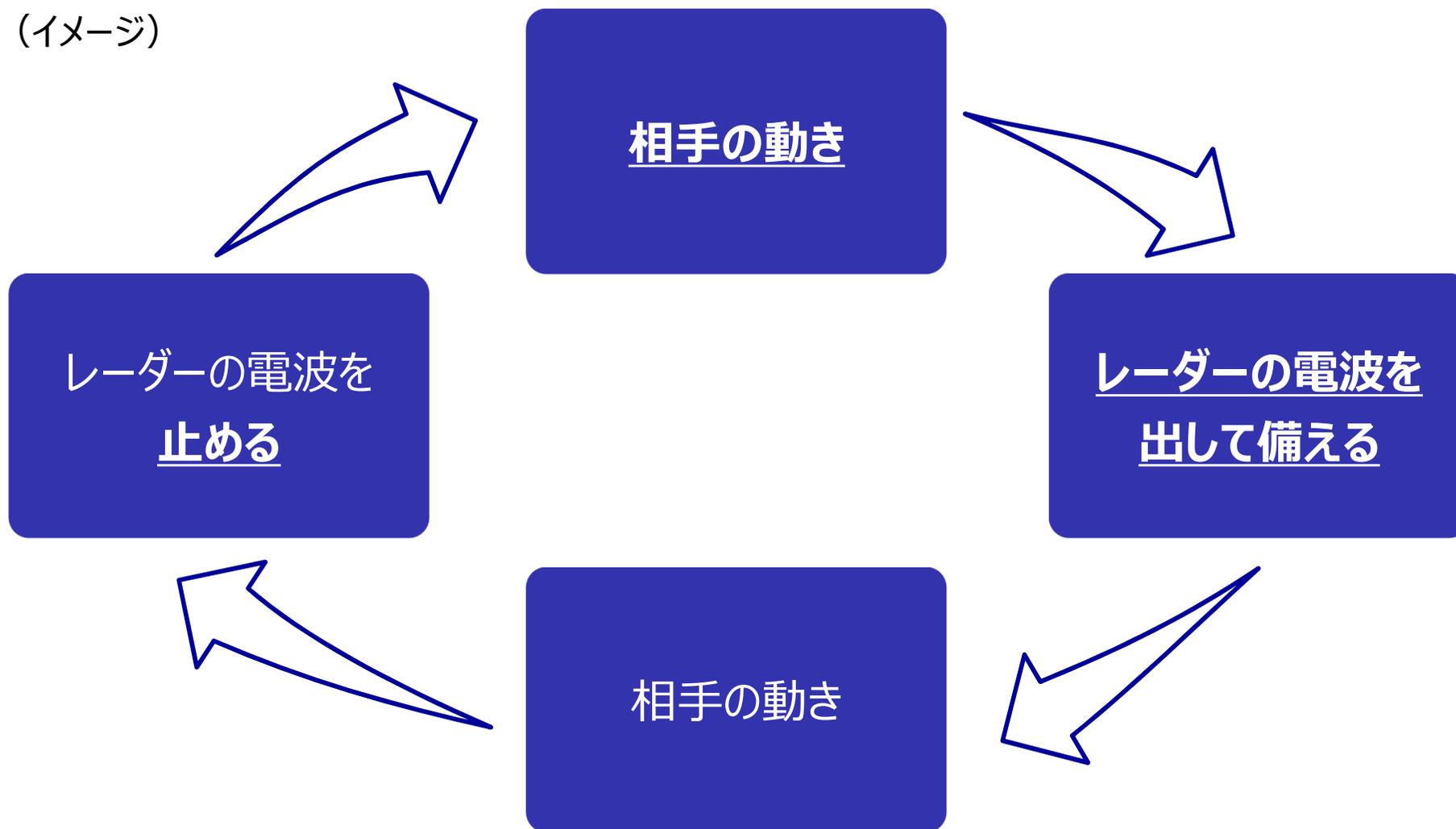
- レーダーやVLSと、住宅地や公共施設との間に、緩衝地帯を確保（700mの離隔）して、施設を配置します。



2. 防衛省の検討結果：電波の影響を防ぐための措置（レーダーの運用）

- イージス・アショアのレーダーは、基本的に、相手の動きに応じて、弾道ミサイルを探知するための電波を出したり、止めたりします。

(イメージ)



24時間365日、常にレーダー波を照射し続けることは想定しておりません

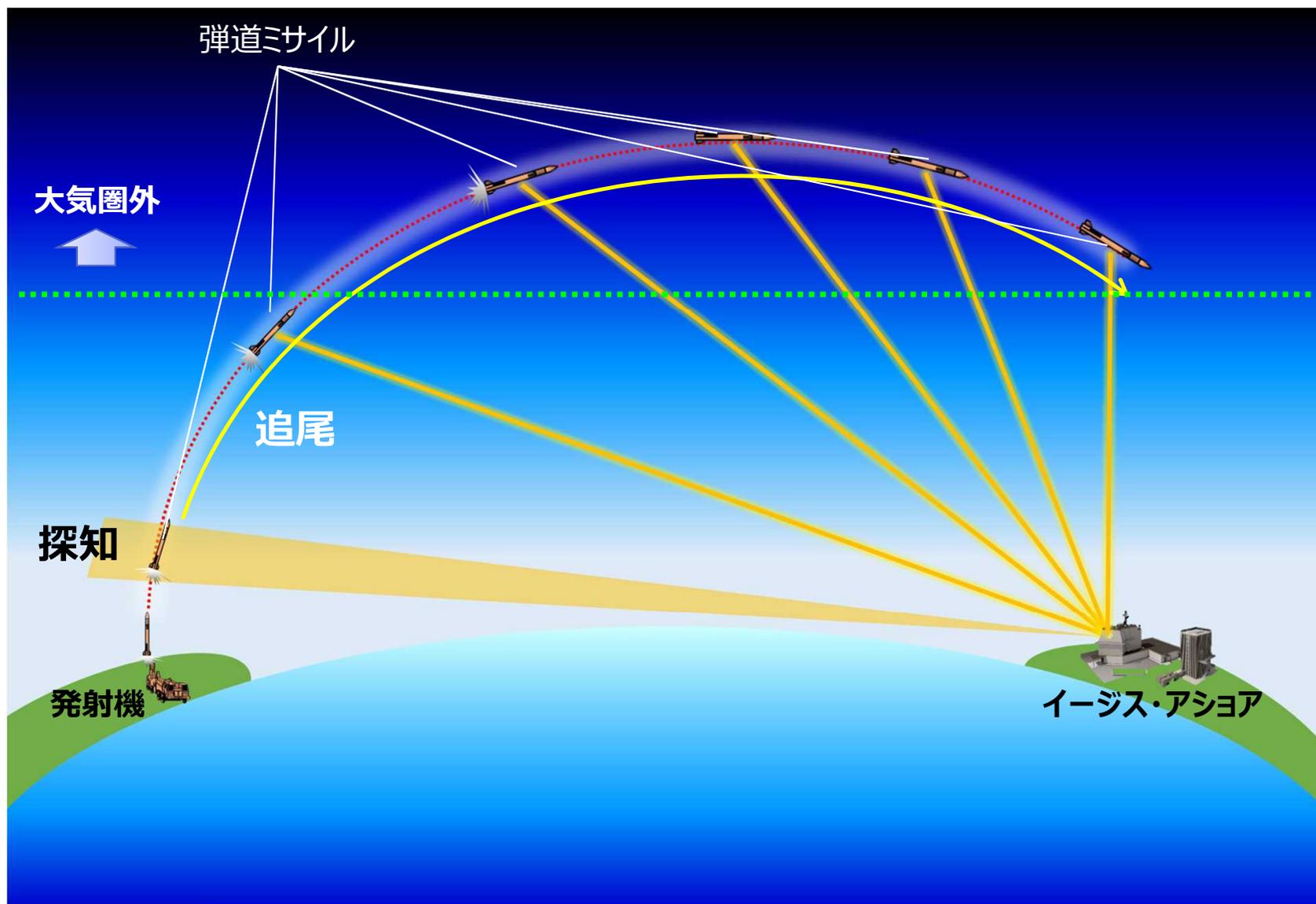
2. 防衛省の検討結果：電波の影響を防ぐための措置（レーダーの運用）

- イージス・アショアは、弾道ミサイルの発射をより遠くで探知するため、日本海の海上・水平方向付近にレーダー電波を放射します。
⇒ メインビームが地表に当たることはありません。



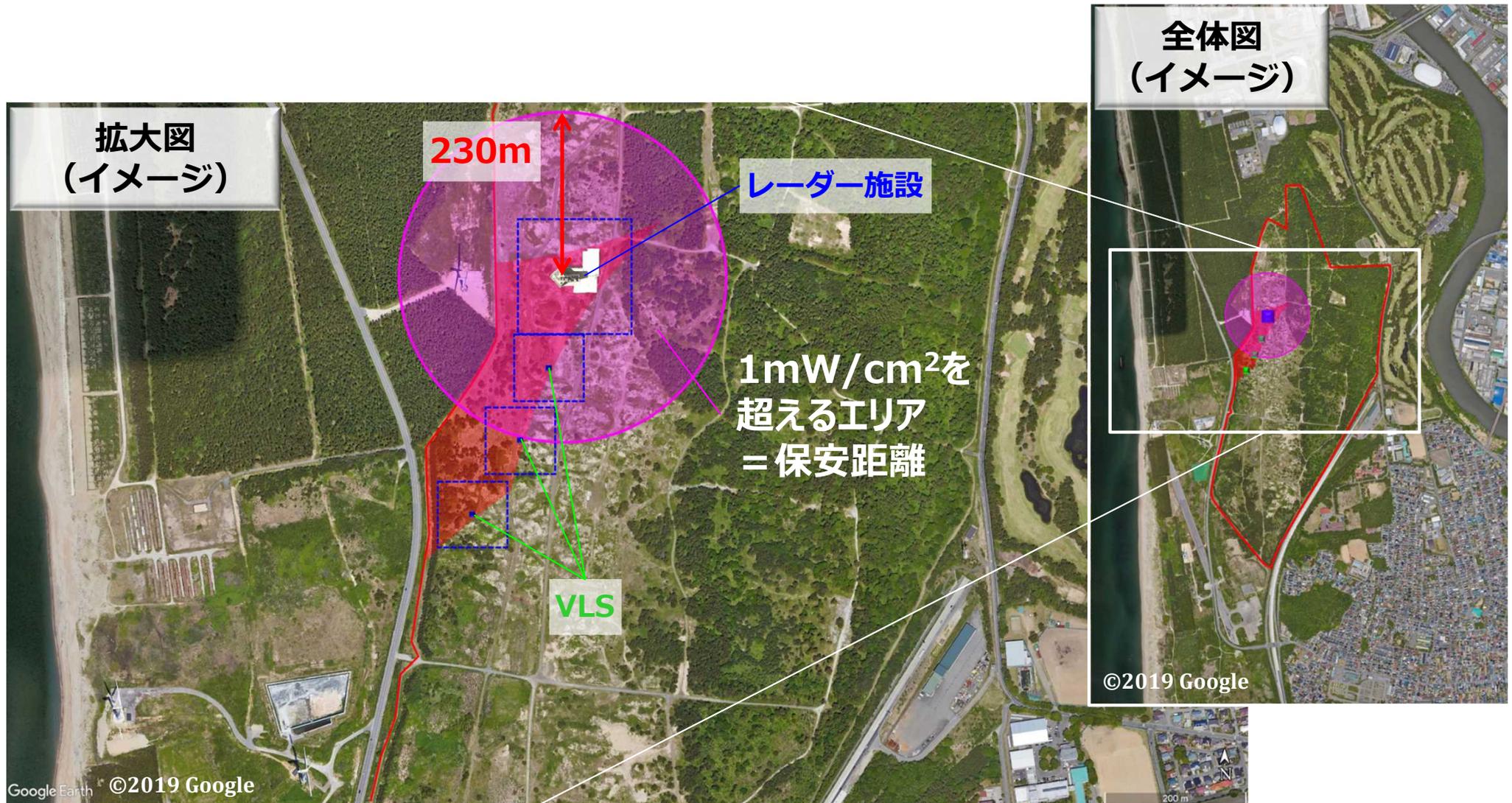
2. 防衛省の検討結果：電波の影響を防ぐための措置（レーダーの運用）

- イージス・アショアのレーダーは、探知後、ミサイルの飛翔・上昇に合わせてメインビームを照射し、追尾を行います。



2. 防衛省の検討結果：電波の影響を防ぐための措置（保安距離の確保）

- イージス・アショアのレーダーの保安距離は半径230mに設定し、一般の方が立ち入らないよう制限します。



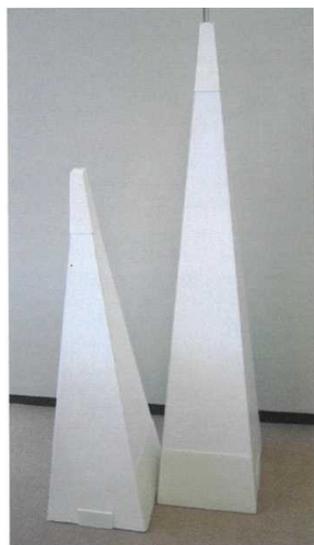
2. 防衛省の検討結果：電波の影響を防ぐための措置（電波吸収体の設置）

■ イージス・アショアのレーダーの周囲に防護壁を設置しますが、その壁に電波吸収体を設置して、電波の影響を更に局限します。

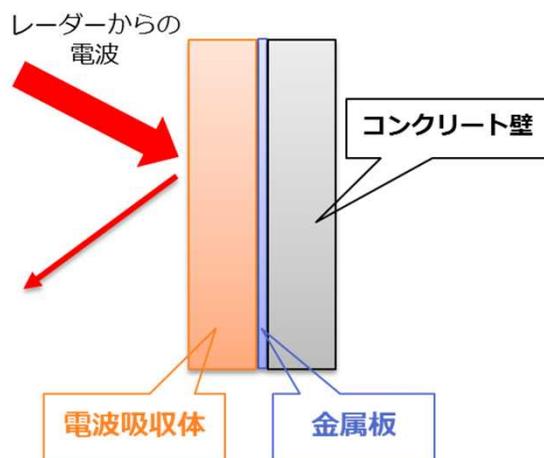
- ✓ 電波吸収体は、既に様々なところで採用されており、技術的に確立されているものです。

例：電子レンジの扉ガラス、ETC
レーン、電波暗室

- ✓ 不燃性のセラミック製を採用し、また、繊維強化プラスチック製の覆いを付けて全天候型にすることを検討中です。

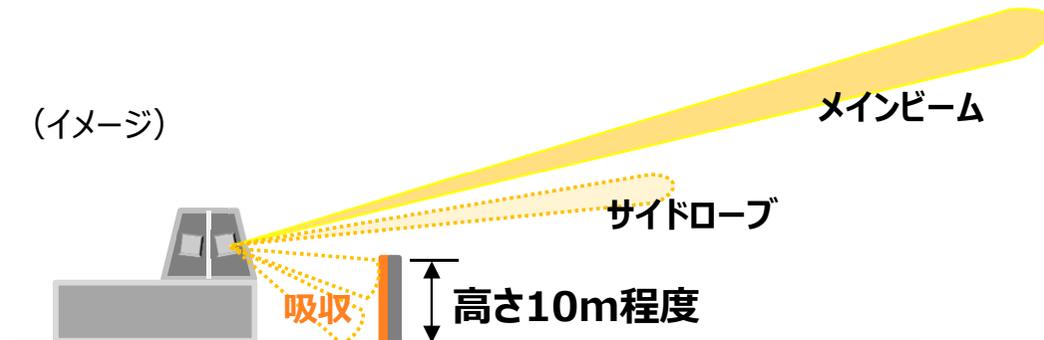
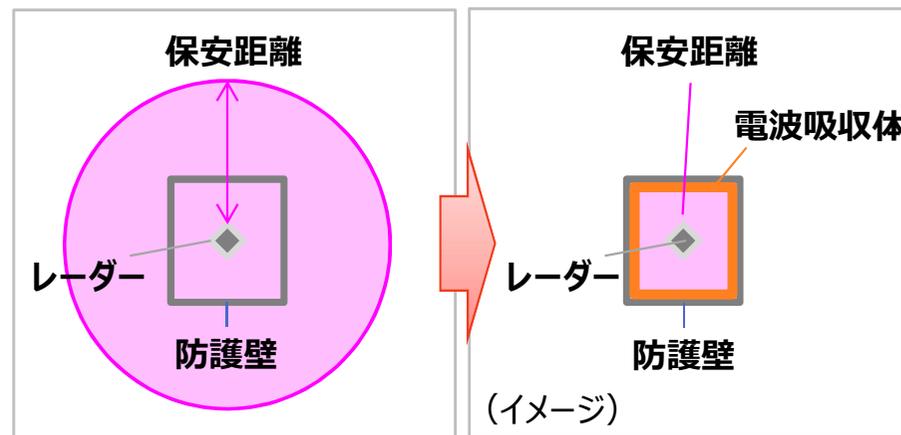


電波吸収体のイメージ



効果

- ✓ サイドローブの多くをカットする
- ✓ 保安距離（影響範囲）をさらに縮減



2. 防衛省の検討結果：電波の影響を防ぐための措置（実機での計測）

- 実機が完成した際には米国において、レーダー設置後は現地において、実測による安全性の確認を確実に行います。
- 更に、運用開始後も、定期的に電波の強度の計測を行い、その結果を公表することを考えております。